

# 洛友会会報

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛友会

## 林千博教授の

### 日本学士院賞受賞について

日本学士院(柴田雄次院長)は三月十二日、昭和四十四年度の恩賜賞と学士院賞の受賞者を決め、六月九日東京上野の学士院会館に天皇陛下を御迎えして内閣総理大臣、文部大臣列席のもとに各受賞者に賞牌と賞金が贈られた。

受賞者の内、洛友会員京大工学部の林千博教授は『非線形振動の研究』に対し学界最高の榮譽とされている学士院賞を授与され三十年余りに亘る研究業績を高く評価された。

教授は京都市出身、昭和九年京



大工学部電気工学科を卒業、三菱電機(株)研究所に勤務された。一時米国ウエスティング・ハウス電機会社に勤務。その後二十一年三月京大工学部助教、二十四年二月に教授に昇任現在に至っている。その間米国コロンビア大学、マサチューセッツ工科大学の客員教授も勤められた。又、数回にわたりソ連・仏・チエコ・スロバキアなどの国際会議で研究発表をされた。

非線形振動現象は工学部門の重要課題の一つであるが、研究手段が難解な解析法あるいは精巧な実験にまたなければならぬので、その全貌は系統的に究明されていなかった。教授は三〇年余りにわたり、この現象の追究に没頭され多くの研究者が誘導した解析結果を精細に検討し、これに独自の新しい手法を加えて適用領域を拡大

するとともに明確にされた。また、電子計算機を併用する独自の非線形方程式解析法を創案開発され、これを駆使しつつ一方精緻な実験を併せ行つて、振動開始条件と発生振動との関連を明らかにし、学術的体系化への道を開拓された。

また、教授の榮譽に対し、敬意と祝意を表し、洛友会会報にその概要を紹介する次第である。(幹事 山本記)

本年度の総会は久し振りに名古屋で行われることになった。日時 五月二十五日(日曜日)場所 名鉄グランドホテル

幹事のお世話になり、名鉄のご厚意により懇親会並びに明治村を見学することになった。

出席者は鳥養会長、芦原副会長、林副会長、本多支部長をはじめ、会員九十五名、家族一三名と言ふ盛況で、前夜来の雨模様も午前中には止み、明治村の見学の時には晴れ、楽しい一日を過ごすことが出来た。

総会は午前十一時二十分より大谷幹事司会の下に、鳥養会長が議長となり、本多支部長の挨拶、鳥養会長の挨拶の後、左記議題が満場一致可決された。

(イ)昭和四十三年度事業並びに決

## 昭和44年度

# 洛友会総会

### 一 中部支部総会

幹事のお世話になり、名鉄のご厚意により懇親会並びに明治村を見学することになった。

出席者は鳥養会長、芦原副会長、林副会長、本多支部長をはじめ、会員九十五名、家族一三名と言ふ盛況で、前夜来の雨模様も午前中には止み、明治村の見学の時には晴れ、楽しい一日を過ごすことが出来た。

総会は午前十一時二十分より大谷幹事司会の下に、鳥養会長が議長となり、本多支部長の挨拶、鳥養会長の挨拶の後、左記議題が満場一致可決された。

(イ)昭和四十三年度事業並びに決

算報告

(ロ)昭和四十四年度予算

(ハ)会則一部変更の件

## 電気工学講習所評議員

(〇印幹事)

- 大5 村井貞三 京都
- 5 立石亨三 京都
- 5 小出博一 大阪
- 5 新宅圭一 大阪
- 6 望月章 京都
- 7 井口誠一 京都
- 8 近藤勇次郎 京都
- 9 井上弥三郎 東京
- 10 荒井一郎 大阪
- 11 白坂勇城 京都
- 12 桑畑弥三郎 大阪
- 12 八木徳三 京都
- 13 柴田美繁 名古屋

これに関連し、電気工学講習所卒業業者より左記の方々を評議員並びに幹事に選出した。

- 15 森芳郎 京都
- 14 蜂矢二郎 京都
- 3 落合勇男 京都
- 2 小松原政次 東京
- 4 北野山人 京都
- 5 清水寿栄治 京都
- 6 井上輝司 京都
- 8 三好保憲 名古屋
- 9 星野一夫 京都
- 10 近藤敬吉 大阪
- 11 山口敬二 京都
- 11 岩本国三 京都
- 11 奥田一郎 松山
- 12 木村広美 京都
- 13 市川亀久弥 京都
- 13 市川盛治 京都
- 14 小山正三 京都
- 15 上野満 京都

次に教室を代表し大谷教授より教室の近況報告があり、最近の学生運動及びその経過に就て報告があり、本問題の解決のむずかしさを感じた。

総会終了後懇親会にうつり、大先輩宮崎駒吉氏の音頭で洛友会の乾杯をして昼食をとり、テーブルスピーチに芦原副会長が将来の発電に原子力発電が主力となること並びに来年の万国博の進捗状況を説明され、来年度の洛友会総会には万国博を見物かたがた大阪で開くことを述べられ、一同喜びと期待を以て拝聴した。次に東京支部

を代表し藤田真一氏が東京支部の事業に就て報告があり、午後一時半バス二台に分乗し明治村の見学に出掛けた。前夜まで雨であったが、明治村に到着した頃は晴れて広大なる地域にわたる明治村の建物を見学した。美しい青葉に取りかこまれた丘陵地帯と入鹿湖畔の風景に、都塵を払い楽しい行楽気分になった。

明治村見学後、A班B班に分れ

A班は名古屋で散会し、B班は犬山ホテルで泊り、クラス会(大正十三年組及び昭和六年組)を催した。B班は翌二十六日にゴルフ組と遊覧組に分れ、遊覧組は青葉滴る日本ライン下りに、豪快なスリルとすばらしい景観を楽しんだ。総会並びに見学会に就て、中部支部の古田幹事を初め、名鉄の方々のお世話になったことを感謝します。(幹事 山本記)

### 昭和44年度 洛友会総会出席者名簿

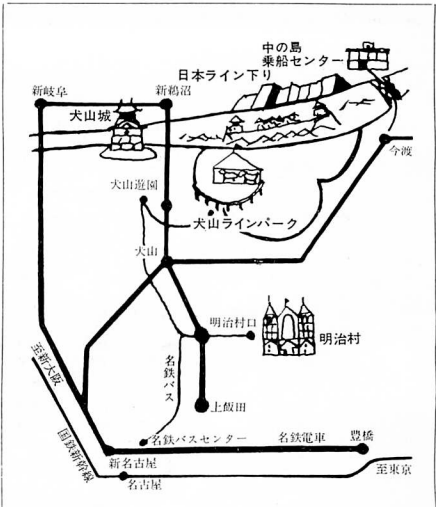
(○印家族同伴)

とき 昭和44年5月25日  
ところ 名鉄グランドホテル

明45	鳥養利三郎	大14	竹安 保
大2	宮崎 駒吉	15	○大島 広定
6	○大塚 徳雄	田中 卓次	後藤 利雄
	保寿 康象	林 重憲	知識 兼則
7	阿部 清	昭2	鈴木 亮三
	各務米次郎	4	山 具 敏夫
11	間崎 竜夫	5	和 田 正弘
12	山田 次郎	6	飯 田 一男
	庄野 誠一		野 田 忠二
	羽村二喜男		上 西 亮二
13	村瀬 那朋		長 安 実
	河津吉兵衛		西 本 憲三
	田中 通雄		野 田 順二
	高島 正一		藤 田 真一
	高田 豊		横 田 準二
	○本多 静雄		山 本 茂雄
	○三浦 倫義		
	○三谷 峰吉		
	○岐美 忠雄		
	吉田吉三郎		
		7	○青山 正次
			石 川 清
			長 田 晋吾
			松 岡 重一

8	○川端 太郎	高尾 磐夫
9	喜田村善一	
10	○香山日出雄	
11	川村 進	
12	大谷 泰之	
13	相木 一男	
14	豊田 孝一	西村 重志
15	加藤 孝一	
16	伊藤 定昌	小島 謙一
17	川合 幹彦	外山 敏夫
18	伊藤 定昌	
19	佐藤 影洋	
20	井上 光生	
21	大野 彰	武田 哲夫
22	石川 進	
23	遠藤 茂	
24	倉野 昌夫	島田洋一郎
25	山崎 泰助	
26	松本 嘉佑	山下 耕市
27	増田 宗敏	
28	○中堀 一郎	
29	片岡 正夫	
30	講習所	
31	立石 亨三	
32	蛭田新一郎	
33	丹羽 銀重	
34	徳田 精	
35	以上 会員83名	家族12名

### ゴルフ会記



香山日出雄(昭10)

西村重志(昭16)

参加者が案外少くて、洛友会のゴルフ会としては物足りなかったが、夜来の雨も上って天候に恵まれ、終始なごやかに愉快なプレーができた。

大山カントリークラブは、コースが雄大で各ホール毎の景観もすばらしく、手入が十分に行われて誠に魅力に富んだコースである。「馴れぬオーナーを続けると疲れる」と言ってみたり、アプローチやパットで「大きい事はいいことだ」とひやかしてみたり、親しみと談笑の中に和気あいあいとして一日を楽しんだ。

参加者は次の通り

岐美忠雄(大13)  
和田正弘(昭5)  
西本憲三(昭6)  
長安 実(昭6)  
喜田村善一(昭9)

洛友会中部支部長の本多静雄様が種々お手配くださったこと、高千穂通信機器製作所社長の中尾一磨氏が特にコースに詳しく一緒にプレーし色々お世話くださったこと、岐美氏ご寄贈の賞品を頂いたことを附記して厚く謝意を表します。(N生)



昭和43年度  
収支決算書

昭和43年4月1日より  
昭和44年3月31日まで

収入の部

科目	決算額	予算額
会費	1,452,800	1,500,000
電気講習所会費	180,900	185,000
預金利子	179,845	200,000
雑収入	1,065,150	980,000
前年度繰越金	3,405,709	3,405,709
合計	6,284,404	6,270,709

支出の部

科目	決算額	予算額
刊行物費	1,318,970	1,422,000
名簿編集費	12,950	15,000
同印刷費	760,250	800,000
同発送費	193,890	250,000
会報編集費	0	7,000
同印刷費	146,910	180,000
同発送費	204,970	170,000
諸費	908,076	950,000
備品費	13,810	20,000
通信費	25,800	50,000
会合費	44,706	50,000
總會費	150,000	150,000
集金費	112,240	130,000
総掛費	306,000	300,000
旅費	255,520	250,000
臨時費	70,000	70,000
懇話会補助	70,000	70,000
支出合計	2,297,046	2,442,000
次年度繰越金	3,987,358	3,828,709
合計	6,284,404	6,270,709

預金および現金 (昭和44年3月31日現在)

信託預金	3,313,688	三菱、住友、各信託銀行
普通預金	367,878	住友、京都、第一万辺
当座預金	641	第一銀行百万辺支店
郵便振替	226,047	京都地方貯金局
現金	79,104	
計	3,987,358	

昭和44年度  
収支予算書

昭和44年4月1日より  
昭和45年3月31日まで

収入の部

科目	予算額	前年度決算額
会費	1,600,000	1,452,800
電気講習所会費	180,000	180,900
預金利子	200,000	179,845
雑収入	580,000	1,065,150
前年度繰越金	3,987,358	3,405,709
合計	6,547,358	6,284,404

支出の部

科目	予算額	前年度決算額
刊行物費	1,470,000	1,318,970
名簿編集費	15,000	12,950
同印刷費	850,000	760,250
同発送費	250,000	193,890
会報編集費	5,000	0
同印刷費	150,000	146,910
同発送費	200,000	204,970
諸費	1,020,000	908,076
備品費	15,000	13,810
通信費	40,000	25,800
会合費	60,000	44,706
總會費	150,000	150,000
集金費	150,000	112,240
総掛費	355,000	306,000
旅費	250,000	255,520
臨時費	70,000	70,000
懇話会補助	70,000	70,000
支出合計	2,560,000	2,297,046
次年度繰越金	3,987,358	3,987,358
合計	6,547,358	6,284,404

(注)

収入の部

雑収入(広告料)内訳	
東京地区	280,000
関西地区	250,000
中国地区	50,000

支出の部

総掛費内訳	
人件費	300,000
電話料	45,000
広告募集費	10,000

# 東京支部総会

五月三十一日、目黒八芳園において開催した。本部より林重憲名誉教授、前田憲一教授および山本茂雄幹事をお迎えした。新役員の選出諸行事(幹事会、講読会、旅行会、趣味の会、グループ活動、懐古談の録音、喜寿祝等)の昨年度報告および本年度の計画審議、会計報告および予算審議が行われた。

前田教授より京都大学の現状、紛争下の授業、研究状況のお話しを又、山本幹事より本部報告が行

われた。次いで懇親会に移り、御来席の楠本宗次郎氏(大7)に喜寿の御祝を、青木三郎新支部長(昭5)より贈呈し、一時閑余りを御出席各位が夫々に歓談に時を過ぎられ、美しいつつじが庭園一杯に咲いた八芳園での総会を盛会裡に閉じた。

- 支部長 青木 三郎 (昭5)  
 副支部長 西本 憲三 (昭6)  
 総務幹事 山田昭二郎 (昭25)  
 会計幹事 沢田新一郎 (昭25)

# 四国支部総会



であった。

船越幹事の司会で宮地支部長の挨拶、四十三年度会計報告の後、四十三年度会計報告および四十四年度予算案を満場一致で承認した。

次いで、田中教授より教室の近況報告、特に大学紛争の様相を報告いただき、また、山本幹事からは、本部の状況報告があり、最後に支部役員の選出を行ない、総会を終了し、引続いて懇親会に移った。

会は、終始なごやかな雰囲気のうち、一同想い出話、あるいは近況報告を語り合い、時の経つのも忘れて、心ゆくばかり打興じて、九時に散会した。

### 選出役員

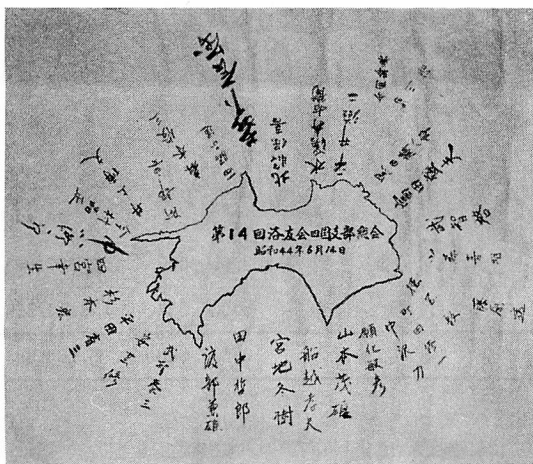
- 支部長 宮地 冬樹 (昭2)  
 副支部長 片岡 恒 (昭8)  
 幹事 阿部 要 (昭8)  
 原田 尚文 (昭14)  
 船越 孝夫 (昭22)  
 今村 晶正 (昭23)  
 土井 正之 (昭23)  
 吉田 芳正 (昭24)  
 (今村記)

### 出席者

41	38	29	26	23	19	15	13	11	9	8	7	6	5	4	15	14	9	7	4	41	
松本	松本	間瀬	羽倉	清水	木村	山村	副島	古池	市村	西山	前田	足立	山本	平田	久野	小宮	一本	小沢	楠本	真崎	
幸雄	恵一	光朗	幸雄	照久	小一	竜男	敏夫	弘正	宗明	安三	憲一	卓夫	茂雄	憲一	清	義和	仙吉	宗次郎	尚忠	宝木	
43	40	33	29	25	22	16	13	12	10	8	7	6	5	4	2	15	11	8	6	44	
岡本	久行	加藤	波多野	沢田	中島	斎藤	松尾	河合	佐野	五十嵐	吉岡	石垣	藤田	伊達	林重	山本	山口	高見	大西	大森	
俊彦	計全	隆二	龍	新一郎	達二	秀夫	三郎	泰次	一雄	俊男	梯次	真一	三郎	達	憲(本部)	三郎	信助	祥平	冬藏	丙	
43	41	36	29	25	23	17	15	12	11	8	8	7	6	5	5	4	15	13	9	7	3
広川	山口	加藤	立山	服部	古川	日野	石崎	中山	久保	田井	浅井	西本	真壁	小菅	安達	奥原	巽	堀岡	乙葉	長島	
正	宏二	宏治	尚武	周三	満智雄	晴夫	達弥	健一	久雄	梁之	光枝	憲三	昌一	菊夫	遂	芳菅	良知	正家	真一	正隆	

六月十四日(土)午後六時より高松市内紅羽旅館において、第十四回洛友会四国支部総会を開催した。

本部からは田中教授、山本幹事をお迎えした。全国的な大学紛争のため、例年出席されている愛媛大、徳島大等の関係者の方達が欠席されたのは少々残念であったが北脇氏(昭五)、黒田氏(昭11)が、四国支部時代を懐しんで、はるばると、京都、大阪から出席され、出席者数三十二名という盛況





関西支部総会

関西支部は、六月二十三日、大阪市北区堂島中央電気クラブで総会を開催した。当日は、鳥養利三郎先生、林重憲先生を迎え、非常な盛会で出席者も約百名を数えた。恒例により、議事が進められ、前支部長森薫氏らにかわって、新しく支部長に加藤博見氏(昭3)、副支部長に山泉敏夫氏(昭4)、上西亮二氏(昭6)、総務幹事に前田藤治氏(昭16)、会計幹事に福川幸勇氏(昭30)、その他幹事十八氏を選出した。

感謝する旨の挨拶があり、新しく選ばれた加藤支部長からは、地元関西支部の一層の盛上りが望まれること、潤いのない社会にあって当会が人間的なつながりの場として意義あるものになりたいなどの抱負が披露された。次いで、前田憲一教授から、教室の近況、特に学園の紛争についての報告があった。この問題は、老若を問わず、日頃の大きな関心事であり、懇親会に入ってから硬軟両論が飛び交い、ビールをくみかわしながら、会員それぞれは学生時代にかえって、楽しい夕べを過ごした。

- 大元 鳥養利三郎
昭 6 光野 重威
昭 13 奥谷 久彦
昭 12 内田 幸夫
昭 3 上林 明
昭 4 鈴木 亮三
昭 6 青柳 健次
昭 7 善積 俊一
昭 9 旭 晴晃
昭 9 西川 豊蔵
昭 10 和田寿太郎
昭 13 小林 四郎
昭 16 前田 藤治
昭 18 氏原 岩雄
昭 23 上米宮良夫
昭 24 加藤 圭司
昭 25 井土 敏一
昭 16 並木 孝一
昭 12 加藤 博
昭 18 井土 敏一
昭 24 宇野 敏一
昭 11 黒田麟八郎
昭 10 北村 芳雄
昭 9 尾崎 完博
昭 7 吉田 茂雄
昭 6 山本 敏夫
昭 4 山泉 薫
昭 3 森 重憲
昭 2 林 重憲
昭 13 岐美 忠雄
昭 14 宮崎佐加枝
昭 9 石黒 九一
昭 6 上林 一雄
昭 9 林 堅太郎
昭 14 木津 圭蔵
昭 3 加藤 博見
昭 4 安本 健助
昭 5 野田忠二郎
昭 7 前田 憲一
昭 8 塩見 武夫
昭 9 喜田村善一
昭 11 中堀 孝志
昭 11 清水 治郎
昭 16 大塚 恭二
昭 17 中沢 清磨
昭 22 山本 重俊
昭 24 岡田 栄一
昭 26 池田 栄一

東北支部第四回総会

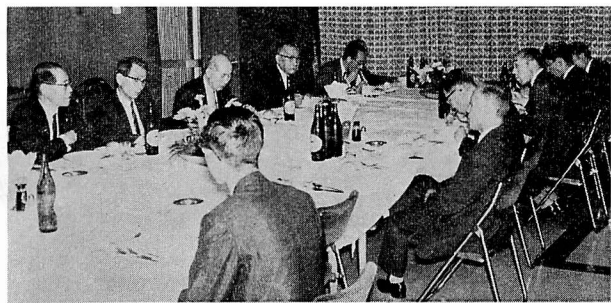
昭和四十四年七月

第四回東北支部総会は、仙台電気会館において、七月五日開催されました。

当日は梅雨空のあいにくの天候にも拘らず、本部より阪口先生をお迎えし、支部会員としては平井支部長、内田副支部長をはじめ、東北各地より十三名の御出席を得て盛況裡に議事が進められ、終って阪口先生より「万国博と照明」と題して、モントリオール万国博と明年予定の大阪の万国博の工事

- 大 4 馬杉栄次郎
昭 7 柴田 幸男
昭 10 桑畑弥十郎
昭 13 名和 兼一
昭 14 入沢 益一
昭 14 森田 福市
昭 14 清水 明義
昭 6 藤島 誠一
昭 4 藤村 俊一
大 4 村井 貞三
昭 7 藤原 篤
昭 11 高野市太郎
昭 12 谷口 久一
昭 14 石田幸三郎
昭 14 徳田 精
昭 15 上条 太郎
昭 15 星山 止
昭 8 山中 良一
昭 4 小山 正一
大 6 佐伯 勲
昭 10 荒井 一郎
昭 11 蛭田新一郎
昭 12 八木 徳三
昭 14 塩見 謙一
昭 14 森 芳郎
昭 3 高菅 清
昭 5 西田外志和
昭 9 松原 重夫
(以上一〇一名)

状況等スライドを主体として、その照明方法についてご講話があり斬新な照明、アイデア等大いに啓蒙される点が多く、出席者一同感激致しました。引き続き懇親会に移り、大学問題や国鉄の状況、また最近訪米された支部長のアメリカの公害の話等話題はつきず、夜のふけるのも忘れ、名残りを惜しみつつ散会致しました。(内山記)



# 中国支部総会

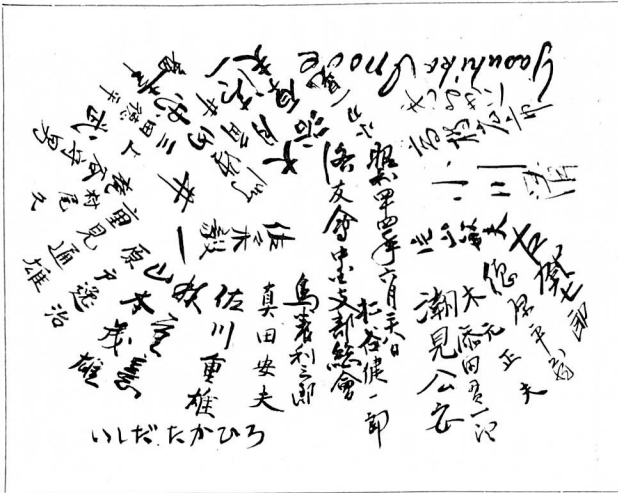


四十四年度予算および支部役員の改選等の議事が進み、引続き懇親会に移った。

本年は二十七名の参加があり、寄せ書き、鳥養会長の揮毫、記念撮影等があり、和気あいあいの雰囲気の中、盛会裡に会を閉じた。なお、支部新役員には次の方々が選出されました。

- |     |              |
|-----|--------------|
| 支部長 | 真田 安夫 (昭2)   |
| 幹事  | 潮見 公安 (昭8)   |
|     | 古賀 七郎 (昭15)  |
|     | 松谷健一郎 (昭16)  |
|     | 井上 武 (昭16)   |
|     | 姫井 豊治 (昭19)  |
|     | 竹本 文明 (昭21)  |
|     | 梶谷 守男 (昭22)  |
|     | 中村善三郎 (昭23)  |
|     | 門野内忠幸 (昭23)  |
|     | 仁木 可也 (昭27)  |
|     | 村尾 久 (昭34)   |
|     | 三田 徳平 (講昭7)  |
|     | 高橋 広市 (講昭14) |

六月二十八日午後四時より、広島市内天城本店において、本日より鳥養会長、林重憲先生、山本幹事をお迎えして、昭和四十四年度中国支部総会が開催された。  
真田支部長、鳥養会長の挨拶に始まり、山本幹事からは、大谷教授より託された「教室の近況報告」と題する一文の披露があり、今更ながら現状のきびしさ、先生方の苦勞がしのばれた。  
昭和四十三年度決算報告、昭和



## 昭和二年卒 同窓会

昭二卒の今年の同窓会は、高知(集合)↓松山(解散)の見学、遊覧。参加者は十二名と夫人三名。高知在住の宮地君、松山の熊谷君、広島の実田君が世話人。三人の並々ならぬお骨折によって内容頗る豊富な、残念乍ら時間やや不足の大盛会であった。熊谷夫人もホステス役として大活躍。  
第一日(五月三十日) 国鉄のご乗客無視の動力テストにぶつか。造化の神の芸術作品である竜河洞。五台山―ロープ・モノレー

ルは世界最初のもの、客車はロープ上を自走する。四国八十八ヶ所第三十一番竹林寺。牧野(富太郎)植物園は時間おそく既に閉園。坊さんかんざしのはりまや橋。三翠園―高知随一のホテル、宴会、観光四国の映画と宮地君苦心の蒐集品である絵金(土佐人の絵書きの金蔵)の芝居絵のスライド。その夜、熊谷夫人より「青柳教育の皆さんは品行方正ね」とお褒めにあずかる。  
第二日(五月三十一日) 桂浜―坂本竜馬の銅像、五色石。第三十三番雪隠寺。高知城―板垣退助と山内一豊の妻の銅像。「天災は忘れた時に来る」の寺田寅彦旧宅。宮地君が社長の高知電気ビルで昼食。R33で松山、道後へ。仁淀川沿いの発電所や送電線の内には宮地君の作品もある。桂浜の五色石はこの川の石が流れ流れて海へそして桂浜に打上げられる。三坂峠の絶景。砥部焼海山窯。「奥道後」―山、溪谷、ロープ・ウェイ、ジャングル風呂、歌劇、映画、ボ

けのご利益はある筈。子規堂（色道とは違う）。坊っちゃんの汽車。松山城登城は割愛。坊っちゃんの城戸屋と松山中学校跡。熊谷学長の愛媛大学と官邸。「奥道後」にてお別れ昼食会、特々製のピフテキ。汽車、飛行機、水中翼船、汽船にて各自帰宅、或は次の目的地へ。レヴオール・レヴオール！

世話人の皆さん、誠にいろいろと有難うございました。ここに改めて厚くお礼を申し上げます。  
なお、今回ご参加の三夫人より次のようなご感想等を頂きました  
同窓諸兄、今後も益々ご夫人ご同伴で参会されることをお願い致します

ます。ある「長寿十二章」の中に「奥様に長生きして貰うべし（同伴の旅行は夫人を若くする）」とあります。

熊谷道子……昭和二年に電気を卒業されたロマンス・グレイのジュエトルマン十三名。心はそのときそのまま。修学旅行の学童のよう。喜び、語らい、笑い興ず。四十幾星霜を過ぎ越し来り、あるいは苦しみの、あるいは悲しみの人生航路もあったでしょうが、少しの曇りも見えず、愚痴もなく、誠に品行方正、学力優秀な各位の集いは、見る目にも美しく、楽しく幸せそのもの。良き人生であったことへの喜びを共々感謝し、心から

祝福いたしました。残る生涯を希望と信念を持って若々しく生きてまいりましょう。

岩本明子……皆様と交歓、楽しい三日を過ぎ、大変嬉しうございました。幹事様方のお骨折とご配慮、皆様方のご親切なお心使い、誠に有難く心よりおん礼を申し上げます。この次の会にもぜひお邪魔させて頂き度いと存じます。他の奥様方も多勢ご参加遊ばすようにと願われます。

下村安子……昨年の黒部行は顔なじみの方も多少心細さを感じながら、主人をたよりに行っていたのですが、流石に皆さんお若い時から気心を知合った中で、私までがなんだか同じような無遠慮さで過してしまい、とても楽しい旅行でした。その上、極く限られた人だけに許されている見学も出来まして、今でもお友達への自慢にして、喜んで居ります。これに味をしめまして又々おねだりして四国行。奥様方のおいでが少く熊谷様、岩本様と私の三人。昨年の方々（西枝様、交川様と太田お嬢様）にお目にかかれなくて残念でした。今回も短い日程でしたが、お蔭で高知、松山の風物を十分に堪能出来ました。「絵金に打込まれた宮地様の熱情……、はりまや橋のかんざしの模様が目白く……、高知城での宮地様の石段

のお話にも感心し……、砥部焼の窯元では思わずおみやげにと手を出した花瓶等ほしいものがいっぱい……、「奥道後」の豪華なホテルにびっくり、金閣寺を模した錦晴殿に二度びっくり……、主人の分と合せると、とった写真が百枚以上……。等々々書き出したらきりがございません。ほんとうに楽しい旅行でした。

最後に今後の予定は一応次のとおりになりましたので、昭二卒の

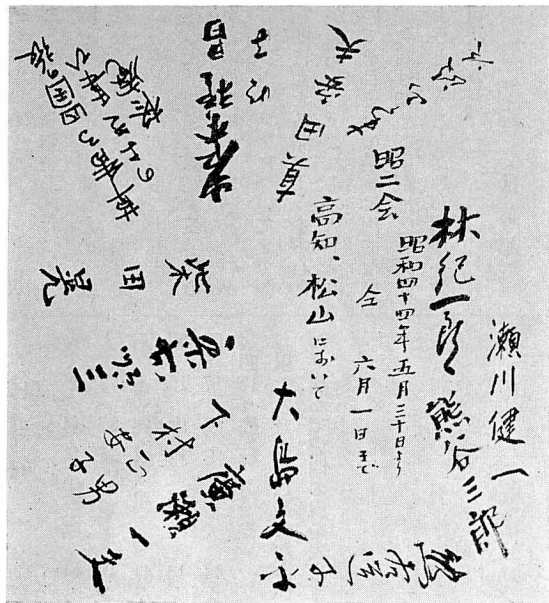
### 昭和十九年卒

### 青芝会

卒業してから二十五周年を迎えたわれわれは、五月十日新緑もすでに深まった八瀬「ふるさと」で五年ぶりの青芝会を開催した。

北は仙台、南は九州にわたる二十名に、松田長三郎、林重憲、大谷泰之先生の出席を得て、盛会のうち、翌十一日朝食後解散した。うち六名は十日早朝からゴルフを交歓し、午後六時出席者全員集合のうえ宴会を開始、それぞれの職務内容、家族構成などを紹介とくに大谷教授から現在の大学紛争を中心とした問題の提示もあって、名残りつきなまま九時半ごろ一応閉会した。しかし何しろ五年おきの集まりであるので話も積

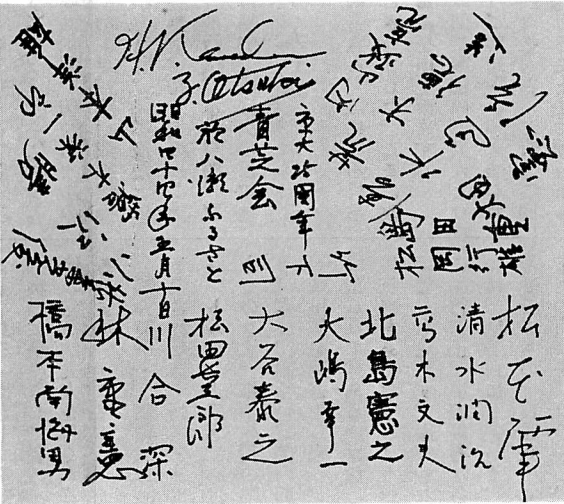
諸兄にはご了承下さい。  
四十五年度 敦賀原子力発電所  
三方五湖、小浜蘇洞門、天橋立  
（在京阪の幹事担当）  
四十六年度 東北地方（会津磐梯山方面）（在東京の方々にお世話をお願い致します）  
四十七年度 京都を中心に四十五周年同窓会（在京阪の幹事担当）  
（六月二十六日S記）



生的に寢室で宴会を再会、午前X時ごろまで大気焔を上げた。

昭和十九年学徒出陣などの不安な社会情勢下で合格証書を握りしめた心境と、それから二十五年、現在の大学問題に対処する学生の心境との比較についての検討から、ソフトウェアについてまでの広範囲にわたる諸テーマを中心に話が展開した。これらのテーマについてそれぞれ結論は出てないが、今回は初めて東京地区で開催しようということだけが満場一致で可決された。

(秋葉記)



訃音

大	8	平井庄三郎	44・2・24
大	15	萩筈院規矩雄	44・3・6
昭	4	高橋親雄	44・4・8
昭	15	中村利雄	44・3・27
昭	17	嶋田和夫	44・6・24
講昭	15	佐藤次雄	

以上の方がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

○本号は林千博教授の学士院賞受賞の紹介をかねて、総会の記事のせました。

(編) (集) (後) (記)



○大学紛争で母校も世間注視の焦点となつて居りますが、何れ落ち付く所におさまるものと期待して居ります。今や宇宙時代、原子力時代と技術革新の波に乗り、会員の各位は、各界にわたりご活躍のことと致します。ご感想やご意見を、編集事務局にご投稿下さる様お願いします。

○本年の名簿は十二月初旬発送の予定です。各支部長及び担当の幹事の方々のご努力により賛助会員の広告を、多数頂きお蔭を以て予算以上の広告料が集まることになり、事務運営上、大助かりです。関係各位のご高配を深謝申し上げます。

(幹事・山本記)

電気総合雑誌

株式会社 電気評論社

本社 京都市左京区田中大堰町49番地 (財団法人 応用科学研究所内)

電話京都 (075) 701-2582 振替京都 9 9 0 6 番

月刊 電気評論

毎月 10日発売

B5判 本文100頁 定価250円 18円

《電気評論バックナンバーご案内》

第52巻 第1号	特集	万国博覧会の電気設備	第53巻 第14号	特集	最近の変電所の諸問題
" 第2号	"	サイリスタ	第54巻 15	"	43年における電力技術革新のあゆみ
第53巻 第3号	"	42年における電力各社の電力技術革新のあゆみ	" 16	特別記事	電力用情報システム
" 4	"	42年における電力界の技術革新のあゆみ	" 17	"	都市の美化と架空配電設備
" 5	"	配電の近代化	" 18	"	プレハブマンホール
" 6	"	電気鉄道の近代化	" 19	特集	電力設備運転保守の自動化とエレクトロニクスの応用
" 7	"	配電近代化・機器資材	" 20	"	電力系統運用におけるエレクトロニクスの応用
" 8	"	500kV送電線	" 21	"	電算機を用いた情報処理におけるエレクトロニクスの応用
" 9	"	最近の雷研究	" 22	"	電気加工
" 10	"	大型機器	" 23	"	高圧受電設備
" 11	"	地震・揚水発電・台風	" 24	"	ヒューズ(10月10日発売予定)
" 12	"	明治百年史			
" 13	"	電力と農業・水産			